

# パナマ共和国ノベブグレ先住民族女性のエンパワーメント ～民芸品による収入向上プロジェクトからの一考察～

## Self Empowerment of the Ngöbe Buglé Women of Panama : A case study of their Handcraft Projects

横浜国立大学大学院 都市イノベーション学府

都市地域社会専攻 都市地域社会コース

グローバルスタディーズ領域 博士課程前期 藤掛洋子研究室

小林 由香里

**【背景と目的】**ラテンアメリカにはマチスモと呼ばれる男性優位主義が存在する。パナマ共和国（以下：パナマ）でもそれは例外ではない。Coordinadora Nacional de Mujeres Indígenas de PANAMÁ“パナマ先住民族女性全国調整機構”（2012）によると、ノベブグレ先住民族は一夫多妻制が認められており、家庭内で児童虐待が多く起こる原因のひとつにマチスモがあると述べている。

2014年7月1日からは新政権が発足した。そして、国内で最貧困地域とされるノベブグレ先住民自治区にあるN市には初の女性市長（以下、Aさん）が誕生した。彼女は、筆者が青年海外協力隊として実施した、収入向上プロジェクトのリーダーである。既婚であり子どもはいない。

マチスモが残る先住民自治区で市長に当選したAさんと、収入向上プロジェクトに関わる組合員の両者にはどのようなエンパワーメント過程があったのであろうか。参与観察、半構造インタビュー、そしてライフヒストリー手法やエンパワーメント指標を用いて、ノベブグレ先住民族女性のエンパワーメントの今後を展望する。

**【方法】**文献調査、そして計2年3か月（2009.06-2011.06,2014.02-03, 2014.09）にわたるフィールド調査を行った。2011年から2014年の間は現地の協同組合庁職員とSNSや電子メールで連絡を取り合い、近況報告を聞いていた。フィールド調査では、参与観察、半構造インタビュー、エンパワーメント指標アンケート、人生の波線グラフ、ディスカッションを行った。このエンパワーメント指標アンケートは、半構造インタビューとともにを行い、そこでの語りを可視化しようと試みたものである

**【結果及び考察】**Aさんは「Mi triste historia（私の悲しい歴史）」と過去を語った。父親から強制的に結婚させられた働かない夫に代わり、教会で働いたり、女性グループを設立したりするなどした。そして、マ

チスモにより形づけられてきた社会のなかでエンパワーしてきた。他の女性の語りやディスカッション内容から、Aさんのエンパワーの過程には長く教会で働いていたことによって、多くの人々（女性からだけではなく、夫や家族なども含む）からの信頼や理解を得られたことが大きく影響していることが分かった。家庭内での仕事が多いと考えている女性がエンパワーするためには、可能な限り積極的に外部との接触をもてるような環境を創出する必要があることがAさんのライフヒストリーを通して明らかになった。

次に同じプロジェクトに関わりながらも、19名には様々なエンパワーメント指標が表れた。組合全体としては、ポイントが増加しておりエンパワーしているといえる結果であった。

ここで注目したいのは、組合設立当初から積極的に活動に参画してきた2名の女性のエンパワーメント指標である。一見するとディスエンパワーしているようであるが、半構造インタビューによって、自分たちの空間を拡大させ、別の文脈でエンパワーしていることが明らかとなった。また、実際には組合の活動に参加はできていないが、組合の今後を心配し、よりよくなってほしいと願っていることも分かった。エンパワーメント指標を用いる上で、グラフからみえるもの（エンパワーしている、していない）、グラフの外にみえるもの（プロジェクト外ではどうであるか）、そしてグラフの内（介入が邪魔をしている等）にみえるものが複雑に入り混ざっているという点を理解していなければならないことが明らかとなった。

**【結論】**以上を踏まえ、ノベブグレ先住民自治区が抱える背景を理解し、対象となる女性とその周囲の人々の信頼や理解を得られ、多様な他者との関わりを積極的に持つことができる環境を創出すること。そして、様々な文脈でエンパワーしていく可能性を理解すること。以上を、パナマ共和国ノベブグレ先住民族女性のエンパワーメントの今後の展望としたい。